

令和5年度学校評価 学校関係者評価

(※取組に対する学校自身による自己評価について、その適切さを5名の学校評議員から評価いただいた結果)

1 本年度の重点目標

「地域オンリーワンの高校として、生徒一人一人の社会的自立を目指した教育」の実践
 (1)生徒が自信を持ち学ぶ意欲と態度の育成
 (2)系統的な進路指導による確実な進路実現
 (3)学校行事等への積極的な取組による生徒の達成感・自己有用感の高揚
 (4)美田園高校や外部機関との連携をとした三修制の推進
 (5)生徒の安全確保と安心できる環境整備
 (6)信頼される学校と風通しのよい職場

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

		A 達成している	B おおよそ達成している	C あまり達成していない	D 達成していない		
評価分野	評価項目	自己評価				自己評価の適切さ	改善策の適切さ
		自己評価結果	改善の方策				
学習指導	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。	A	国教英の3教科については、習熟度別授業をとおして、生徒の学力段階に応じた学習指導を継続する。また、プリントやICTの積極的な活用、生徒たちによる学び合いの場面を設定する等、主体的に学ぶ姿勢の育成を目指す。			A	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・少人数ならではの指導を継続し、生徒へ寄り添う学校方針をこれからも大切にして欲しい。 ・きめ細やかな指導を引き続き実践して欲しい。 					
生徒指導	生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができています。	A	担任、教科担任、養護教諭、学校生活適応支援員が日常的に連携をとりつつ、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋ぎ、チームとして切れ目のない生徒支援を心がける。また、外部の専門機関との連携を深め、それぞれの強みを生かしながら課題や悩みの解決に努める。			A	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・入学時から卒業時まで、切れ目のない支援を意識して欲しい。また、卒業後についても目に掛けられる意識を持って欲しい。 ・小規模校の利点を生かし、生徒と教員の密な関係を大切にして欲しい。 					
進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	B	進路行事を実施する際に、そのねらいを的確に生徒に理解させながら指導にあたることを心がける。また様々な進路行事がある中で、企業訪問や学校訪問、外部講師による講演などは、進路学習としてとても効果的であることから外部の関係機関との連携をより一層深めていく。			A	A
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学への進学も目指せるようになって欲しい。大学は、一つでも優れた科目を有していれば合格できる場合もある。 ・生徒の自主性を考えた指導を心がけて欲しい。 					
特色あがる学校	地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	C	コロナ禍も収まり、以前のように外部との交流が可能となることから近隣の小中学校や諸団体との対話をまずは行いたい。交流が進むにつれ、現在行っている飯野川校の取組が地域活動とどのようにマッチングするのを探りながら、飯野川校生にとっても地域にとっても良い効果が生まれる取り組みを模索していく。			B	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・本校（石巻北高）で実施している「とらまい」に、飯野川校の学校農園で育てた野菜を販売してはどうか。育てる→出荷する→販売する、の過程を経験することはとても良い学習である。 ・地域の方々と触れ合う機会をつくるべき。 					

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 生徒の自主性、主体性の育成	生徒会活動や部活動、クラス行事、全体行事などの特別活動において、企画や運営をできる限り生徒自身に任せる。それにより、課題解決能力やコミュニケーション能力の向上に繋げる。
② 学校外学修の充実	校内のプロジェクトチームを中心に高大接続や高技専実習の継続について検討する。また、新たな校内での実習や校外での就労実習についても検討し、生徒の選択肢の幅を広げられるようにする。
③ 進路希望の拡大	就職希望者への対応については現状を継続していく。進学希望者については4年制大学希望者の創出のため、具体的な大学や奨学金などについて、進学情報の提供を積極的に行う。